

1. 分宿先の人数は？ 何か 記録があるのか。

不明

2 流山での新政府軍との交戦は全くなかったのか。あれば負傷者、損害は？

恩田家文書、吉野家文書によると、交戦があったと書かれているが、下記については、聞き書きであり詳細は不明であるので参考程度にする。

- ・恩田家の文書によると、「諸所で双方が合戦となり、にわか仕立ての軍であるため江戸方は不意を打たれて大敗し、ついには降参した」とある。
- ・吉野家文書では、「官軍方大砲 2 挺発した。歩兵方は加村高山へ登り砲発 5, 6 放した。加村や流山根郷の商人や老人子どもなど騒ぎ立てた」とある。 「古文書にみる新選組と流山」 田村資料

3. 滞在中、地元民との交流（酒宴、飲食）はなかったのか？

不明である。

4. 鴻池の名前が出てくるが、永岡屋との関係はどうか。

永岡屋の屋号が鴻池であるという説がある。

小松原文書では鴻池儀兵衛方に駐留とある。

永岡三郎兵衛が、穀物仲間に仲買として参入する際の請け人に、鴻池由太郎の名前がある。

詳細は、質問者が調査し、定例会で発表して欲しい

- ・流山に関する鴻池には栄助、由太郎、儀兵衛がいるが全て屋号である。
- ・鴻池儀兵衛の姓は永岡である（文政9年許可）。
- ・三郎兵衛が永岡姓になったのは慶応元年、三左衛門、紋次郎らと許可になった。
- ・儀兵衛は三郎兵衛の主人筋との説もある。

5. 新政府軍に一気に取り囲まれることになったのは、新選組の殆んどが訓練に行っていたと聞くがどうか。

隊士達は光明院や流山寺等にいたと思われるが記録が残っていないのでわからない。

6. 来流の説明は、メインは〇〇で他には△△、□□との説明でどうか。（個人によって異なるのを避けたい）

新政府軍との接触を避けるため移動したと思われるが、来流の理由はわからない。

7. 新選組といえば、やはり京都時代を想像してしまう。何かそれとは違うというイメージ、言葉をうまく伝えられる表現ができないか。人寄せ、キャッチフレーズには新選組はいいが、史跡ガイドとしては誤解を与える

「新選組と流山」について説明するのであって、新選組を説明するのではない。

従って、流山を中心にガイドを組み立てるべきである。

8. 小西屋に残る刀剣等の写真を活用し、説明の話題性として使えないか。

小西屋さんに迷惑がかかるのでやめた方が良い。

銃刀法の管理下にあり、あまりオープンにはできない。

9. 秋元家土蔵と本陣は直接関係ない。本陣説明時に不要ではないか。

お客さんはこの土蔵が新選組の本陣と思い込んでしまうので、当時はこの土蔵は無かったという説明はした方がよい。本陣と誤解しないように説明する。ついでに国登録有形文化財に指定されたことを付け加える。

10. 江戸川を渡るとき、大砲なども馬舟を使ったと説明をしたいがどうか。大勢の隊員、物資をどのようにして流山に持ち込んだのか（ルートは必要ないが）

幕末当時、丹後の渡しには三艘の馬船という渡し船があつて、馬なら4, 5頭、人なら4, 50人、大砲なら3門乗せることができた。 「流山の江戸時代を旅する」 P58

お客様の目的にあった説明が必要で、必要と思ったら大砲を馬船で運んだことも説明してよい。

11. 4月3日、午後3時～8時の長時間、新政府軍と何があつたのか。新政府軍としては何故不審者を一気に捕縛しなかつたのか。出来る情勢であつたと思うが。

推測だが近藤勇は土方歳三と切腹するか、出頭するか、戦うかの内容を検討していたのであろう。

不審者かどうかわからないものを捕えるわけにもいかなかつたのではないか

注意！捕縛：罪人に対して使う 不審者：疑わしい人に対して使う（訊問）

12. 近藤勇と土方歳三が戊辰戦争で戦つた場所。

近藤勇：甲州勝沼の戦い、

土方歳三：鳥羽・伏見の戦い、甲州勝沼の戦い、宇都宮城の戦い、壬生の戦い、母成峠の戦い、会津戦争、二股口の戦い（蝦夷）、箱館戦争

13. 流山に来た隊員が分散逗留した場所と人数は如何ほどだつたか。

恩田家の文書から光明院、流山寺、そのほかを借りて止宿していたとあり、人数は不明。

永岡屋、光明院、流山寺には止宿した記録が残っていない。

14. 流山での逗留時の村人との軋轢状況、新政府軍とはどのような衝突があつたのか。

項目2を参照。

15. 土蔵の壁についているカギはどのように使われるのか詳しくは知りたい。

外壁によく見かける先端が直角に上に曲がつた鉄釘は、「オレクギ（折れ釘）」といい、その根元周りの丸く膨らんだ部分は「マンジュウ（饅頭）」と呼称した。折れ釘は、工事中の足場の振れ止めにしたり、普段ははしごを吊るしておいたり、また樋を受ける金物の役割も果たした。」

風雪や風雨に土蔵の壁の漆喰が直接さらされて痛むのを防ぐために板塀状の物（下見板張）を壁に垂直に止める金具として使用している。下見板張は夏場に外して乾燥させて季節が悪くなる前に保護のため使用する

16. 近藤勇・土方歳三の死亡した年齢が34歳と35歳があるが？

近藤勇：生年月日1834年10月9日、没1868年4月25日（満33歳6カ月）（享年35）

土方歳三：生年月日1835年5月5日 没1869年5月11日（満34歳6日）（享年35）

満年齢と享年との違いと思われる。

17. 近藤勇辞世の句を正しい姿に整備したらどうか。

現在ある物は個人所有物である。質問ではなく要望

18. ネットで拾ったこの画像は本物か。(隊員の写真添付)

ネット提供者に聞いてほしい

19. 新選組は何故流山に来たのか。新政府軍は流山に来た武装集団を新選組と認識していたのだろうか。永岡屋酒造にお咎めはなかったのか。

五兵衛新田にいた新選組は、新政府軍が千住を通るので戦いを避けるために流山に来た。

新政府軍は新選組と認識していなかった。永岡屋にお咎めがあったかどうかは不明。

永岡屋は、嶋屋に売り渡し、その後明治17年に、秋元藤之助が買収して秋藤商店(現秋元)になった。

20. 新選組来流の地元記録がない理由。

記録を残しておく、新政府からお咎めが来ることを心配して残さなかったと思われる。

永岡屋、光明院、流山寺にも新選組の記録を残していない

たった1泊で記録に残す必要があったかどうか。

21. 近藤勇は何故切腹を許されなかったのか。

新選組隊長として鳥羽・伏見の戦い、甲州勝沼の戦いで新政府軍に敵対し「大逆罪」とされたため切腹ではなく処刑された。

22. 近藤勇は何故甲府へ行かされたのか。新政府軍と甲府で戦うためか。

新政府軍による江戸城総攻撃(1868年3月15日)を回避するため、大久保一翁は抗戦派と目された新選組を江戸から排除するための策であったとされる。新選組が江戸にいたのでは西郷隆盛との交渉がうまくいかないといわれている。

23. 新選組の名はいつ消滅したのか。

京都から続く新選組は甲陽鎮撫隊と名前を変えた1868年3月で消滅した。以後、残党の中で新選組を名乗って戦った者もいる。

24. 新政府軍か官軍か。会として呼称を統一したほうが良い。

会として新政府軍で統一している。